第31回 平日の午後のコンサート。

2023.8.7(月) 14:00開演　東京オペラシティ コンサートホール
Mon. Aug. 7, 2023, 14:00 at Tokyo Opera City Concert Hall

〈真夏の午後の夢〉 〈Midsummer Afternoon Dreams〉

指揮とお話　出口大地 Daichi Deguchi, conductor & speaker
ピアノ　清水和音＊ Kazune Shimizu, piano
コンサートマスター 依田真宣　Masanobu Yoda, concertmaster

ハチャトゥリアン：劇音楽『仮面舞踏会』より
“ワルツ”“ノクターン”“ギャロップ”(約11分)
Khachaturian: Waltz, Nocturne & Galop from Masquerade (ca. 11 min)

グリーグ：ピアノ協奏曲より第1楽章＊(約13分)
Grieg: 1st movement from Piano Concerto (ca. 13 min)

— 休憩 intermission —

ベルリオーズ：幻想交響曲より(約21分)
Berlioz: 2nd, 4th, 5th movement from Symphonie fantastique (ca. 21 min)

第2楽章「舞踏会」2nd mov. Un bal
第4楽章「断頭台への行進」4th mov. Marche au Supplice
第5楽章「ワルプルギスの夜の夢」5th mov. Songe d'une Nuit du Sabbat

主催：公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団 / Presented by Tokyo Philharmonic Orchestra

◎すべてのお客様に、快適にお楽しみいただくために / Dear audience
♪本公演は全席指定です。指定のお席にご着席ください。演奏開始間際の入場の際にはスタッフの案内で入場券記載とは異なる席への着席をお願いすることがございます。♪演奏中のご入場は、固くお断りいたします。楽章間のご入場は楽曲の進行によりスタッフがご案内いたします。入場いただけない場合もございますのでご了承ください。♪曲間・楽章間での退場につきましては、体調に不安がある場合など、無理せずご判断ください。その際、周りのお客様の鑑賞の妨げとならぬよう、ご配慮いただければ幸いです。♪演奏中に、時計やスマートフォンのアラーム音等が鳴らないよう、いま一度ご確認ください。♪演奏は最後の余韻まで余さずお楽しみください。早すぎる拍手や声援は他のお客様の鑑賞の妨げとなる場合がございますので、ご配慮くださいますようお願いいたします。
♪All seats are reserved. Late admittance will be refused during the live performance. If you enter or reenter just before the concert or between movements, we may escort you to a seat different from the one to which you were originally assigned. ♪ Exiting during the performance will be tolerated. If you do not feel well, please exit or enter as you need. However, please mind the other listeners so that they will be minimally disturbed. ♪ Please refrain from using your cellphone or other electronic devices during performance. ♪ Please cherish the "afterglow" at the end of each piece for a moment before your applause.

出演者プロフィール

指揮とお話　出口大地
Daichi Deguchi, conductor & speaker

©hiro.pberg_berlin

第17回ハチャトゥリアン国際コンクール指揮部門にて日本人初の優勝。クーセヴィツキー国際指揮者コンクール最高位及びオーケストラ賞受賞。関西学院大学、東京音楽大学指揮科にて学び、2023年ハンスアイスラー音楽大学ベルリン指揮科修士課程修了。ベルリン・コンツェルトハウス管弦楽団、アルメニア国立交響楽団等の指揮を経て、東京フィルハーモニー交響楽団定期演奏会で日本デビュー。広上淳一、クリスティアン・エーヴァルト、パーヴォ・ヤルヴィ、ドナルド・ラニクルズ、井上道義、沼尻竜典、下野竜也各氏らの薫陶を受け、ベルリン放送交響楽団ではヴラディーミル・ユロフスキ氏のアシスタントを務めた。

公式ホームページ　https://daichideguchi.wixsite.com/daichideguchi

ピアノ　清水和音
Kazune Shimizu, piano

©Mana Miki

完璧なまでの高い技巧と美しい弱音、豊かな音楽性を兼ね備えたピアニスト。ジュネーヴ音楽院にて、ルイ・ヒルトブラン氏に師事。1981年、弱冠20歳で、パリのロン=ティボー国際コンクール・ピアノ部門優勝、あわせてリサイタル賞を受賞した。これまでに、国内外の数々の著名オーケストラ・指揮者と共演し、広く活躍している。室内楽の分野でも活躍し、共演者から厚い信頼を得ている。これまでにソニーミュージックやオクタヴィア・レコードなどから多数のCDをリリースし、各誌で絶賛されている。ショパン、ベートーヴェン、ラフマニノフなどを中心に幅広いレパートリーを誇り、日本を代表するピアニストとして活躍中。

プログラム・ノート

解説＝飯尾洋一

色彩感豊かなメロディが誘う“真夏の午後の夢”

本日のマエストロ、出口大地は第17回ハチャトゥリアン国際コンクール指揮部門で日本人初の優勝を果たした気鋭の指揮者。受賞を受けて、昨年、東京フィルの定期演奏会でオール・ハチャトゥリアン・プログラムにより日本デビューを飾りました。

本日はそんなマエストロにふさわしく、ハチャトゥリアンの名曲、『仮面舞踏会』で幕を開けます。ちなみにマエストロは左利き。左手に指揮棒を持つ姿はかなり珍しい光景かもしれません。

グリーグのピアノ協奏曲では、日本を代表する名ピアニスト、清水和音が独奏を務めます。大ベテランと新鋭の共演で、グリーグならではの北欧情緒をたっぷりとお楽しみください。

最後に演奏されるベルリオーズの『幻想交響曲』は作曲家の熱烈な恋心から生まれたエネルギッシュな名曲。オーケストラからカラフルなサウンドが生み出されます。豊かな色彩感とイマジネーションが幻想の旅へと誘ってくれます。

マエストロ出口によるスケールの大きな指揮と軽快なトークをお楽しみください

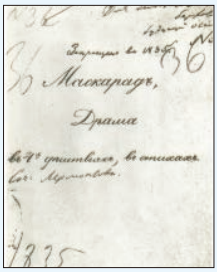
悲劇の予感漂うワルツ、憂愁のノクターン、喧噪のギャロップ

アラム・ハチャトゥリアン(1903-1978)は旧ソビエト連邦で活躍したアルメニア人作曲家です。少年期には正規の音楽教育に恵まれませんでしたが、多民族が共生する故郷で幼少時からさまざまな民族音楽に親しむことで、独自の感性を育みました。人気作「剣の舞」はだれもがどこかで耳にしていることでしょう。

劇音楽『仮面舞踏会』は19世紀ロシアの詩人・小説家レールモントフが書いた同名の戯曲のために作曲されました。ストーリーはロシアの貴族社会を舞台とした悲劇。主人公アルベーニンは美しい妻ニーナと仮面舞踏会に出かけます。ニーナは舞踏会でうっかり自分のブレスレットを落としてしまいます。拾われたブレスレットは人から人へと渡り、ある公爵が手にすることに。公爵は口説いた女からもらったのだとブレスレットをアルベーニンに見せびらかします。アルベーニンはニーナが不貞を働いたと勘違いして、激しい嫉妬に苛まれます。嫉妬はやがてどす黒い憎悪へ。アルベーニンはひそかに毒を盛ったアイスクリームをニーナに食べさせます。真相を知ったのは、ニーナが息絶えた後でした……。

“ワルツ”はこの劇音楽でもっとも広く親しまれている名曲。かつてフィギュアスケートで浅田真央選手が用いたことから一躍人気を高めました。華やかで重厚な曲想が舞踏会の情景を表現する一方、悲劇の予感も漂わせます。**“ノクターン”**では独奏ヴァイオリンの愁いを帯びた表情が印象的。**“ギャロップ”**では、はめを外して大騒ぎをする様子が伝わってきます。

レールモントフ



戯曲『仮面舞踏会』(1835年)の表紙

フィヨルドに流れ込む滝のようなパッセージ

ノルウェーが生んだ最大の作曲家が**エドヴァルド・グリーグ**(1843-1907)。母親はドイツで教育を受けたピアニスト、父親はスコットランド系の商人でイギリス領事という家庭環境に生まれました。幼少時のピアノの先生は母親。15歳になると、ノルウェーの著名な音楽家オーレ・ブルに才能を見出され、より本格的に音楽を学ぶために、ドイツのライプツィヒ音楽院に留学しました。ここでグリーグはピアノと作曲を学びますが、音楽院生活は若き才能にとって退屈なものだったようです。むしろ、グリーグにとって有益だったのは、ライプツィヒの豊かな音楽環境だったにちがいありません。この文化都市でグリーグはさまざまな演奏会に足を運びました。そのなかには、シューマンのピアノ協奏曲イ短調を妻のクララ・シューマンが弾いた公演もありました。当時、クララ・シューマンは天才ピアニストとして作曲家である夫をしのぐ名声を誇っていました。

留学から帰国すると、グリーグはノルウェーの民族主義に目覚め、国民楽派の作曲家として自らの作風を確立します。当時、北欧をはじめヨーロッパ諸国には、自国の文化や伝統を作品に取り入れようという考え方が広まっていたのです。

エドムン・ネウペット

1868年、グリーグはデンマークを訪れ、友人ですぐれたピアニストのエドムン・ネウペットらとともにコペンハーゲン郊外の田舎町に滞在します。ここでグリーグは**ピアノ協奏曲**の作曲に取り組みました。作曲にあたっては、ネウペットからの助言も大いに役立ったことでしょう。作品はネウペットに献呈され、翌69年コペンハーゲンで行われた初演は大成功を収めます。聴衆からは嵐のような拍手が送られました。

グリーグのピアノ協奏曲が初演されたカシノホールの外観

曲は全3楽章からなります。本日演奏されるのは、**第1楽章 アレグロ・モルト・モデラート**。とりわけ有名なのが冒頭の部分です。ティンパニのクレッシェンドに導かれ、独奏ピアノが高いところから下に落ちてゆくかのようなパッセージを奏でます。この部分は、まるでノルウェーのフィヨルドに流れ込む滝のようだとよく指摘されます。加えて、この作品には同じイ短調で書かれたシューマンのピアノ協奏曲を連想させるところもあります。ノルウェーらしさとドイツ音楽の伝統の両方の要素が一体となって、新たなピアノ協奏曲の傑作が誕生しました。

初演の翌年、グリーグはこのピアノ協奏曲を持参して、ローマに当時最大のピアニストであり作曲家のリストを訪ねています。楽譜を手にしたリストは、初見で曲を演奏し、グリーグを温かく激励したと伝えられています。

ノルウェーのフィヨルドの風景　©stock.adobe.com

色彩感豊かな幻想的世界

「幻想」という言葉から思い浮かぶイメージはどんなものでしょうか。現実離れした夢のように美しい光景を想像する方もいれば、ファンタジーなど幻想文学の世界を連想する方もいらっしゃるでしょう。

フランスの作曲家、**エクトル・ベルリオーズ**(1803～1869)が**『幻想交響曲』**で表現したのは、失恋して絶望した芸術家が薬物によって体験する奇怪な幻覚

です。「幻想」というよりは「妄想」と呼んだほうがふさわしいかもしれません。曲の副題は「ある芸術家の生涯からのエピソード」。感受性の鋭い芸術家が失恋してアヘンで服毒自殺を図ったところ、アヘンは致死量には至らず、芸術家は幻覚を見ます。そこで芸術家は恋人を殺し、殺人の罪でギロチンにかけられます。

ハリエット・スミッソン

この「ある芸術家」とは、ずばり、作曲者自身のこと。ベルリオーズはイギリスの劇団によるシェイクスピアの「ハムレット」の上演を目にして、オフィーリア役の女優ハリエット・スミッソンに熱烈な恋心を抱きます。ベルリオーズは懸命にスミッソンを追いかけますが、当時まだ駆け出しだった作曲家をスミッソンが相手にすることはありませんでした。満たされぬ思いに苛まれたベルリオーズは、苦しみを芸術へと昇華させます。そこで書きあげられたのが『幻想交響曲』。色彩感豊かで、奇抜なストーリー性を持った革新的な大作交響曲が生まれました。

曲は全5楽章から構成されています。本日演奏されるのは、その第2楽章、第4楽章、第5楽章です。

第2楽章は**「舞踏会」**のシーン。ハープが活躍する華麗なワルツが奏でられます。舞踏会には恋人の姿も。

第4楽章は**「断頭台への行進」**。失恋した芸術家は恋人を殺してしまい、死刑が宣告されます。そして、勇ましいマーチとともにギロチン台へ。まるでお祭り騒ぎのような賑やかな音楽が鳴り響きます。一瞬、可憐な恋人の姿を思い浮かべますが、無情にもギロチンの刃が落とされます。

第5楽章は**「ワルプルギスの夜の夢」**。ここは亡霊たちの世界。主人公の葬儀に魔女や化け物たちが集まってきて、不気味な宴会をくりひろげます。そして死んだ恋人が醜い姿に変わり果てて、乱痴気騒ぎに加わります。弔いの鐘とともに現れるのは古くから伝わる「怒りの日」のテーマ。曲は一段と高潮し、禍々しいクライマックスへと突き進みます。

いいお・よういち（音楽ジャーナリスト）／著書に『クラシック音楽のトリセツ』（SB新書）、『R40のクラシック』（廣済堂新書）、『マンガで教養 はじめてのクラシック』監修（朝日新聞出版）、『クラシックBOOK』（三笠書房）他。雑誌やウェブ、コンサート・プログラム等に幅広く執筆する。テレビ朝日「題名のない音楽会」他、放送でも活動。